

ふりがな 氏名	つちや ひろみ 土屋 裕美	職名	講師
取得学位	修士(看護学)	学会での受賞歴	なし
主な担当科目	成人看護援助論Ⅱ(急性期)、成人看護学実習Ⅱ(急性期)、看護過程、看護学研究ゼミナール、健康科学特論、看護の統合と実践実習、地域ふれあい実習		
所属学会	日本クリティカルケア看護学会、日本看護研究学会、日本看護協会、なごや看護学会		

◆ 教育業績

事項	実施年月(日)	概要
健康障害を持つ成人期にある対象の看護実践の知識と技術を習得するため、領域自作のVTRを活用した演習を実施(椋山女学園大学)	平成29年4月～平成30年4月	平成29年度および平成30年度看護学部看護学科の授業科目「成人看護技術演習」を受講する3年生に対して、フィジカル・アセスメント技術、治療支援技術、救急対応法、健康教育等について、演習を通して学習支援をした。医療面談や看護技術のVTR作成もした。また、呼吸理学療法の講義では、呼吸療法認定士の資格を活かし、呼吸理学療法の実施方法と看護について講義した。
健康障害をもつ成人急性期にある対象の健康問題に関する問題解決能力を習得するため、紙上事例を利用した演習を実施(椋山女学園大学)	平成29年4月～平成30年4月	平成29年度および平成30年度看護学部看護学科の授業科目「急性期成人看護学演習」を受講する3年生に対して、成人期周手術期の紙上事例と解答例を作成した。その紙上事例を用いた看護過程の展開を通して、対象の健康問題に関する問題解決能力を習得できるように指導した。また、「急性期看護のポイント」の講義では、急性期患者の心理を理解するために活用できる理論として「危機理論」、「ストレスコーピング理論」などを講義した。
健康障害を持つ成人慢性期にある対象の健康問題に関する問題解決能力を習得するため、紙上事例を利用した演習を実施(椋山女学園大学)	平成29年4月～平成30年4月	平成29年度および平成30年度看護学部看護学科の授業科目「慢性期成人看護学演習」を受講する3年生に対して、成人慢性期の紙上事例と解答例を作成した。その紙上事例を用いた看護過程の展開を通して、対象の健康問題に関する問題解決能力を習得できるように指導した。
成人期・老年期の周手術期にある患者・家族の看護援助の理解を深めるため、看護理論の活用について講義を実施(椋山女学園大学)	平成30年1月	平成30年度看護学部看護学科の授業科目「健康障害と看護概論」を受講する1年生に対し、周手術期にある患者と家族の心理が理解できるように「危機理論」、「アキュラとメズニックの問題解決理論」などを解説した。事前課題であった事例患者の心理の分析として、理論の適応方法について学生がイメージしやすいように講義した。
慢性期にある成人期患者の健康問題の理解、患者と家族に対して専門的援助を実践するための看護実践能力を育成できるように、臨地実習にて看護過程の展開および看護実践のための指導を実施(椋山女学園大学)	平成28年10月～平成29年7月	平成28年度から平成29年度看護学部看護学科の授業科目「慢性期成人看護学実習」を受講する3年生および4年生に対し、慢性期にある成人期患者の健康問題の理解、患者と家族に対して専門的援助を実践するための看護実践能力を育成できるように、学生5名を3週間ずつ担当し、慢性期看護を実践できる施設で実習指導をした。また、複数受け持ち患者の看護について、タイムマネジメント、ケアの優先性・平等性等について学習できるように指

事 項	実 施 年月(日)	概 要
		導した。実習手引き、実習記録、実習記録の書き方例の作成にも携わった。
成人期における周手術期およびクリティカルな状態にある患者の健康問題を理解し、患者および家族に対して専門的援助を実施するため、看護実践能力の育成に関して実習指導を実施(椋山女学園大学)	平成 28 年 10 月～平成 29 年 7 月	平成28年度から平成29年度看護学部看護学科の授業科目「急性期成人看護学実習」を受講する3年生および4年生に対し、成人期における周手術期およびクリティカルな状態にある患者の健康問題を理解し、患者および家族に対して専門的援助を実施するための看護実践能力の育成に関して、学生5名を3週間ずつ担当し、実習指導をした。実習手引き、実習記録、実習記録の書き方例の作成にも携わった。
健康障害を持ち、地域で生活する患者・家族への看護実践のため、実習指導を実施(椋山女学園大学)	平成 29 年 7 月～令和元 年 7 月	平成 29 年度から令和元年度看護学部看護学科の授業科目「成人老年ベーシック実習」を受講する 3 年生に対し、健康障害を持ち、地域で生活する患者・家族への看護実践を2週間展開した。外来看護師の役割や患者の個性を踏まえた日常生活援助について方法・根拠について考察し、実践できるように指導した。実習手引き、実習記録の作成、実習方法の検討、施設との連絡会などの運営にも携わった。
成人期・老年期における急性期の健康障害をもつ対象者の看護実践のため、実習指導を実施(椋山女学園大学)	平成 29 年 10 月～令和 2 年 3 月	平成 29 年度から令和元年度看護学部看護学科の授業科目「急性期成人老年看護学実習」を受講する 3 年生および 4 年生に対し、学生 5 名を 3 週間ずつ担当した。臨地において状況的に急性期におかれる「手術」を取り上げ、状況的危機にある周手術期の成人期・老年期患者および家族の健康問題を理解し、看護上の問題を解決する過程の実践を通して、急性期および回復期の看護を考察できるように実習指導した。実習手引き、実習記録、実習記録の書き方例の作成にも携わった。
成人期および老年期における慢性期の健康問題・加齢現象をもつ対象者への看護実践のため、実習指導を実施(椋山女学園大学)	平成 29 年 10 月～令和 元年 3 月	平成 29 年度から令和元年度看護学部看護学科の授業科目「慢性期成人老年看護学実習」を受講する 3 年生および 4 年生に対し、学生 5 名を 3 週間ずつ担当した。慢性期成人・高齢者の健康問題、加齢現象、発達課題に対して、成人期から老年期以降に伴う身体的・精神的・社会的反応と経験に関しても焦点を当てることで、つながりを学ぶとともに違いを理解し、対象者のニーズに対応した看護の基礎実践能力を育成できるように実習指導した。実習手引き、実習記録の作成にも携わった。
術後観察の手技を向上するためのオンデマンド教育システムを活用した学習	令和 2 年 4 月～	健康科学部看護学部2年生の科目「成人看護学援助論Ⅱ(急性期)」を受講する学生に対して、術後観察方法について、実際の動きを動画教材6シーン各1～3分程度で作成し、技術演習後に解答例としてオンデマンド教育システム Glexa にアップロードし、演習後の復習教材および技術演習の確認テストの視覚資料とした。授業後は、質疑応答や小テストの実施も同システムを活用

事 項	実 施 年月(日)	概 要
		し、学生が理解しづらい項目については次の授業で解説し、小テストの高得点へとつなげることができた。
術後合併症の看護および疾患別術後看護の理解を深めるための教材作成	令和2年4月～	健康科学部看護学科2年生の科目で使用している教科書の中からキーワードの空欄を書き込める事前課題を各授業において1枚作成した。また、成人期の胃癌患者の周手術期看護の紙上事例をA4サイズで9ページ作成し、周手術期の一連の経過の理解と看護過程の展開を実践できる教材を作成した。授業内の消化器疾患の周手術期看護の講義においても、本事例を活用した。
看護過程の展開の理解を深めるためのオンデマンド教育システムを活用した個別学習	令和2年4月～	健康科学部看護学科2年生の科目「看護過程」を受講する学生に対して、看護実践の基盤となる問題解決思考プロセスとして看護過程の展開方法を学習できるように紙上事例の看護過程の展開について、学生が理解しづらい点や質問についてオンデマンド教育システムGlexaの質問欄を活用し、学生の理解度に応じて授業時間外の個別指導を行った。
基礎ゼミナール	令和2年	健康栄養学科および看護学科1年の7名の学生に対して、アカデミックスキルの向上を目指すことを目的とし、文献検索・文献検討の方法、レポート作成について授業資料を作成して講義をした。実際に各学科に関連するテーマを学生に選定してもらい、レポート作成を個別指導で行い、中間発表および成果発表を行った。
成人看護学実習における急性期看護過程の展開の理解を深めるためのオンデマンド教育システムを活用した個別学習	令和3年11月～	健康科学部看護学科3年生の科目「成人看護学実習Ⅱ(急性期)」を受講する学生に対して、成人急性期の看護過程の展開を効率的に展開できるように、事前課題として青年期・壮年期・向老期の各発達段階の身体・心理・社会的側面の特徴、手術を受ける患者・家族の特徴についてGlexa機能を活用し、その理解度に応じて、実習時の指導に反映させた。
教科書 新体系看護学全書 経過別成人看護学②「周術期看護」作成(椋山女学園大学) メヂカルフレンド社 ISBN978-4-8392-3326-6	平成29年12月	<b>編集:</b> 明石恵子、畠田理佳 <b>著者:</b> 畠田理佳、奥村美奈子、竹内佐智恵、吉田和枝、福録恵子、犬丸杏里、吉村弥須子、田中久美子、深田栄子、岡田悠輝、中村美鈴、師岡友紀、荒尾晴恵、益田美津美、浅田美也、長谷川千花、田中萌、北野ゆかり、井澤史恵、小塚裕子、濱田美穂、藤井夕香、本多正繁、大仲真子、西口真由、松下綾子、 <u>土屋裕美</u> 、高口有香子、稲垣知里、神谷菜月、中川愛弓、中川千菜美、松並真利枝、渡辺沙央里、松田美紗子、小森一人、舘昌美、中神克之、佐藤正美、永田千恵、市原千花子、大串陽子、西由紀子、稲垣悦子、北村千里、大石ふみ子、渡辺美奈、五十嵐真理、八代律子、佐藤崇史、足立珠美、木下英里、土井亜紀子、羽田麻梨実、山田真実、大川滋美、平井元子 <b>担当:</b> 全491ページ中、第3章呼吸器系の手術を受ける患者・家族の看護(p.267-279)の計12ページを執筆。 本書は、看護師養成課程で看護を学ぶ学生のための教

事 項	実 施 年月(日)	概 要
		材シリーズのなかの「周術期看護」を取り扱った新刊書籍である。患者・家族は地域に住む生活者であるという視点をもって必要な看護についてまとめている。
教科書 新体系看護学全書 経過別成人看護学②「周術期看護」第2版作成 メヂカルフレンド社 ISBN978-4-8392-3386-0	令和3年12月20日	本書は、平成29年12月に出版された周術期看護の教科書であるが、第2版を左記の実施年に診療ガイドラインの改訂や新たな治療方針や看護の在り方を踏まえ、最新の知識を取り入れるために、加筆・修正した。 編者:明石恵子、畠田理佳 著者:畠田理佳、奥村美奈子、福録恵子、吉田和枝、福録恵子、犬丸杏里、吉村弥須子、田中久美子、岡田悠輝、中村美鈴、師岡友紀、荒尾晴恵、益田美津美、浅田美也、津田翔司、北野ゆかり、井澤史恵、小塚裕子、田所孝子、西山和成、松下綾子、 <u>土屋裕美</u> 、奥村泉、神谷菜月、松田美紗子、小森一人、館昌美、中神克之、佐藤正美、永田千恵、市原千花子、大串陽子、日比美由紀、稲垣悦子、市川裕美、大石ふみ子、渡辺美奈、五十嵐真理、八代律子、福岡俊樹、吉村恵、佐藤崇史、足立珠美、木下英里、土井亜紀子、羽田麻梨実、山田真実、大川滋美、平井元子 担当:全489ページ中、第2編、第3章呼吸器系の手術を受ける患者・家族の看護(p.275-287)の計12ページを執筆。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論 文	慢性期成人看護学実習における看護技術の到達状況と課題	共	平成30年3月	椋山女学園大学看護学研究 Vol.10	生田美智子、佐原弘子、 <u>土屋裕美</u> 、宇佐美久枝、竹井留美、粥川早苗、池俣志帆、森脇佳美、赤井美由紀、吉田誠史 p.39-50
	老年看護学実習における高齢者の生活機能を整える援助技術の技術到達度の分析	共	平成30年3月	椋山女学園大学看護学研究 Vol.10	池俣志帆、粥川早苗、佐原弘子、生田美智子、宇佐美久枝、竹井留美、 <u>土屋裕美</u> 、森脇佳美、赤井美由紀、吉田誠史 p.29-37
	臨床研究のカベをどう突破したか—ここでいいたい！看護研究のウラ話—(交流集会)	共	平成29年6月	日本クリティカルケア看護学会学術集会	木下佳子、佐々木吉子、明石恵子、中田諭、林みよ子、 <u>土屋裕美</u> 、福田友秀 第13回日本クリティカルケア看護学会学術集会プログラム・抄録集 p.73

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
	慢性期成人看護学実習における 看護技術の到達状況と課題(ポス ター発表)	共	平成30年 3月	第22回一般社団法人日 本看護研究学会東海地 方会学術集会	土屋裕美、生田美智子、佐原弘 子、宇佐美久枝、竹井留美、森 脇佳美、池俣志帆 第22回一般社団法人日本看護 研究学会東海地方会学術集会 抄録p.17